



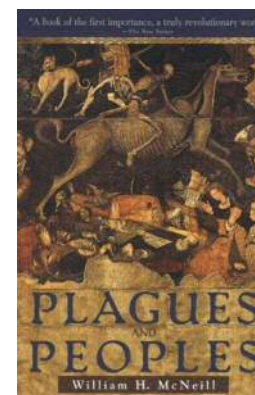
パンデミックとグローバリゼーションの歴史学

国際総合科学部 川崎 勝

歴史上の大規模なパンデミック（下表）を比較対照し、考察を行うのが本研究の目的である。特に、それぞれのパンデミックの背景をなした各時代の「グローバル化」を重視し、パンデミックとグローバリゼーションの相関関係を探る。また、パンデミックの趨勢に大きな影響を与えた、各時代の医学・医療の状況と情報伝達のあり方も考慮する。

1. 19Cコレラは、近代かつ国家的な公衆衛生体制の確立を促したが、それはCOVID-19においても各国でそれなりに機能した。他方、世界的な保健衛生機関であるWHOが成立（1948年）して初の本格的なパンデミックであるが、COVID-19に対してWHOが果たした役割は限定的なものに留まる。
2. COVID-19は、19C後半に確立した病原微生物学に代表される生物医学的アプローチが本格的に適用されたパンデミックである（スペイン風邪の本体であるインフルエンザウイルスの発見は1930年代）。生物医学的アプローチは、極めて迅速な全ゲノム構造の解明や、mRNAワクチンの驚異的スピードでの開発など著しい成果を上げたが、天然痘のような撲滅には至っていない。
3. いつの時代もパンデミックは流言飛語の培地となるが、国家による情報統制は無意味。また、IT化の著しい伸展は、逆にデマ情報の流通の源泉ともなる。
4. 天然痘は例外であり、中長期的に見れば、人間は病原微生物と「共存」していかななくてはならない。いかなる時代も基本的な感染対策が重要であり、人心が落ち着くとともに、再びグローバル化は進展の途に戻るであろう。

			主たる流行地	各時代の「グローバル化」
1	14C	ペスト	ユーラシア大陸	大モンゴル帝国によるユーラシアネットワークの確立
2	16C	天然痘 他	中南米	大航海時代の「新世界」と「旧世界」の邂逅（コロンブス交換）
3	19C	コレラ	世界各地・断続的	大英帝国による海洋覇権と蒸気船の普及
4	20C	スペイン風邪	主に欧米	第一次世界大戦に総動員体制と大量のヒト・モノの兵站の確立
5	21C	COVID-19	世界全域・同時	大規模・高速のグローバル化・IT化



山口大学研究プロジェクト
コロナの時間学 ～新型コロナウイルスが人間と社会に対して与える時間的影響～

研究成果報告書

主研究者	川崎 勝	所属	国際総合科学部	
共同研究者				
研究課題名				
パンデミックとグローバリゼーションの歴史学				
研究内容と成果の概要				
歴史上の大規模なパンデミック（下表）を比較対照し、考察を行うのが本研究の目的である。特に、それぞれのパンデミックの背景をなした各時代の「グローバル化」を重視し、パンデミックとグローバリゼーションの相関関係を探る。また、パンデミックの趨勢に大きな影響を与えた、各時代の医学・医療の状況と情報伝達のあり方も考慮する。 19C コレラは、近代のかつ国家的な公衆衛生体制の確立を促したが、それは COVID-19 においても各国でそれなりに機能した。他方、世界的な保健衛生機関である WHO が成立（1948 年）して初の本格的なパンデミックであるが、COVID-19 に対して WHO が果たした役割は限定的なものに留まる。 - COVID-19 は、19C 後半に確立した病原微生物学に代表される生物医学的アプローチが本格的に適用されたパンデミックである（スペイン風邪の本体であるインフルエンザウイルスの発見は 1930 年代）。生物医学的アプローチは、極めて迅速な前ゲノム解明や、mRNA ワクチンの驚異的スピードでの開発など著しい成果を上げたが、天然痘のような撲滅には至っていない。 - いつの時代もパンデミックは流言飛語の培地となるが、国家による情報統制は無意味。また、IT 化の著しい伸展は、逆にデマ情報の流通の源泉ともなる。 - 天然痘は例外であり、中長期的に見れば、人間は病原微生物と「共存」していかななくてはならない。いかなる時代も基本的な感染対策が重要であり、人心が落ち着くとともに、再びグローバル化は進展の途に戻るであろう。				
		主たる流行地	各時代の「グローバル化」	
1	14C	ペスト	ユーラシア大陸	大モンゴル帝国によるユーラシアネットワークの確立
2	16C	天然痘 他	中南米	大航海時代の「新世界」と「旧世界」の邂逅（コロンブス交換）
3	19C	コレラ	世界各地・断続的	大英帝国による海洋覇権の確立と蒸気船の普及
4	20C	スペイン風邪	主に欧米	第一次世界大戦による総動員体制と大量のヒト・モノの兵站の確立
5	21C	COVID-19	世界全域・同時	大規模・高速のグローバル化・IT 化

研究進捗状況・研究成果の公表状況等

論文、学会等発表、実データの利用状況、研究の有用性を広めるための活動など

現在、研究内容をまとめている最中であり、まとまり次第、論文化して投稿予定。